

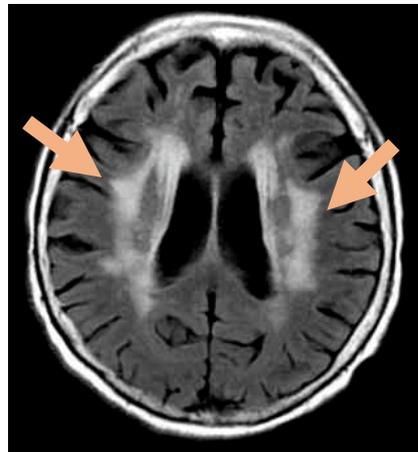
第9話 大脳白質病変

MRI 検査で大脳白質にみつかると白い斑点を「大脳白質病変」と呼びます(図1)。年齢とともにみつけることが多く、脳ドックでは約半数に軽微な白質病変がみられます。「慢性虚血性変化」などとも表現されますが、決して脳梗塞の痕ではありません。

大脳白質病変のMRI画像(図 1)



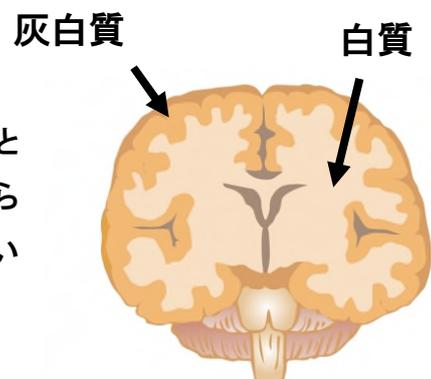
軽微な白質病変



重度な白質病変

① 大脳白質とは

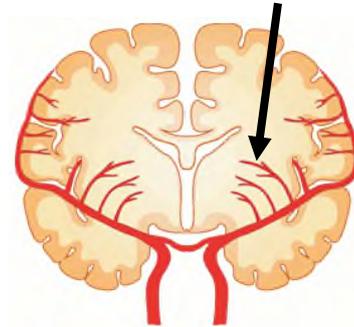
大脳の表面は神経細胞が集まっており灰白質と呼ばれます。その奥が大脳白質で、神経細胞からの命令を伝える神経線維が束となって走行しています。



② 白質病変は何を表しているの

大脳白質内を走る細い動脈(穿通動脈)に動脈硬化が起ったために生じた変化と考えられています。大脳白質病変が多く存在すると、将来脳卒中や認知症を生じやすいことが知られています。

穿通細動脈



③ 白質病変を指摘されたときはどうすればいいの

白質病変の出現に最も強く影響するのが高血圧です。その他に糖尿病、慢性腎臓病、喫煙なども関係するといわれています。このような要因があれば、脳卒中や認知症予防のため、しっかりとした対策が必要です。

・このような要因がなければ、単なる加齢変化と考えられます。生活習慣を整えて、健康的な日々をお過ごしください。

